

「武雄市図書館歴史資料館を学習する市民の会」へ応援メッセージ発信しました。

「人は目の前のことは大きく見え、遠くのことは見ようとしない生き物」と言われま
す。

いま、その時だけを考えるのではなく、子どもや孫の世代、いえ、未来を見つめて
活動されていらっしゃる「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」の
みなさまの活動に人のありようを考えます。

図書館は私たちの暮らしの“根っこ”

私たちも 根っこを枯らさないように 絶やさぬように

子ども達のまなざしに恥じない 大人としての責任を果たしていきたい



- ★ 注目の武雄市図書館4月1日開館 たくさんの問題を抱えての船出
 - ・図書館は民主主義の基底部分。その図書館の管理運営が市民の意見を十分に取り入れた形跡はない。図書館を・民主主義を壊していないか?
 - ・これが図書館?? 蔦谷書店とコーヒー店が主要な場を占め、その部分を通らなければ図書館へ行けない、公の土地を業者に明け渡し利益供与とならないか?
 - ・天井までの蔵書・・転落防止のストッパーはついていますが、地震の時は大丈夫? 高い場所に配置された資料は、自由に閲覧できる状況ではない。開架ではなく実質「閉架」では?
 - ・Tカード(ツタヤのポイントカード)は1日1回、3ポイント(3円)がつくが、著作権法では本の無償貸与は非営利、と定められている。法違反では?
- ★ 半月が経ち予想を超える人気とか。週末には「話題の図書館を見たい」と市外の人が多く押し寄せているようだ。図書館は“特別の場所ではない”日々の暮らしの延長線上にあるもの。主体は地域市民。